



<森・川・海～つながる自然環境>

札幌市環境プラザ(札幌エルプラザ2階)にて40名ほどが参加して「海浜美化フォーラム2016<森・川・海～つながる自然環境>」を開催しました。

昨年に続き、小林 三樹氏が「豊平川あってのまち・札幌」と題して講演して下さいました。小林氏は、昨年「海は広いな大きいな…は今」をテーマに、汚染された海の状態を講演して下さい、「海辺は陸と海が出会う豊かな場所、人間の営みが海ゴミの発生や漂着の原因にもなっている」とお話しされました。

講師：小林 三樹氏

(公財)北海道環境財団理事長
藤女子大学客員教授

今回は小林氏の専門である都市環境、特に水に関して、大都市札幌をピックアップして語られました。札幌市の水源、奥定山溪の森林に川や海から蒸発した

H₂Oが循環し、また海へ帰る。海から奥定山溪まで循環できるのは水だけである。水源の森があってこそ安心できる。幕末に北海道の本拠地を選定したのは松下武四郎で、水源の森が豊かである札幌を選んだ、とのお話から、最も目から鱗だったのが、世界中の大都市で一番きれいで美味しい水が水道から出るのは札幌市のみであり、更にそれは”バージンウォーター”であることでした。

小林氏によると、本州では川の上流付近で使った水が下流の地域で再利用され、また下流へと繰り返し水の再利用が行われている。東京などでは数十回再利用された水を再利用して飲料水や工業用水に使用している。だから札幌市民は幸せであり、札幌の水道は「極楽水道」とであると話されました。

また、昔から洪水の多い土地柄を洪水や氾濫などの自然災害から守るためになされた行政のダム工事や治水工事の苦闘の歴史、水害に強いまちづくりについて丁寧に説明され、また、大都会の真ん中に野生の鮭が回帰し、その鮭の遡上を見学できる鮭科学館まであり、世界的に稀な大都市であると話されました。

パネルディスカッションでは、石川清氏が「森・川・海つながり」を漁業者からシジミの漁獲量が減少したことと森の荒廃についてなどの報告や千歳川放水路についてや、鮭の稚魚の放流や漁獲の問題など幅広く報告して下さいました。



海浜美化フォーラムの歴史

2003年より毎年1回、計14回開催。述べ950人が参加し、環境について学んできました。

第10回(2012.2.18) 50名「漁場環境の保全について」石川清氏、「海、知られざる世界」藤田尚夫氏

第11回(2013.2.23) 45名「森・川・海つながり一劣化と復元の歴史」中村 太士氏

第12回(2014.2.22) 40名「流木は どんなもの？」齋藤 直人氏

第13回(2015.2.28) 45名「海は広いな大きいな…は今」小林 三樹氏

第14回(2016.2.13) 40名「豊平川あってのまち・札幌」小林 三樹氏

